

依頼を表す尊敬表現「お／ご～になってください」と「お／ご～ください」の違い

The Difference between the Two Polite Forms of Request
'O/go - ninattekudasai' and 'O/go - kudasai'

野 呂 健 一
Kenichi Noro

(要 約)

本研究は、尊敬語と依頼表現の組み合わせである2通りの表現を取り上げる。一つは「お読みになってください」「ご覧になってください」のように尊敬語「お読みになる」「ご覧になる」に依頼表現の「てください」をつけた表現であり、もう一つは「お読みください」「ご覧ください」のように「になって」を省略した表現である。後者の省略型のほうが若干敬意は落ちるもののほとんど違いはないとされていることが多いが、実例を観察するとどちらか一方しかなじまない場合が存在する。機能別に見ると、許可、誘いに比べ、指示、懇願は少ない。これは、「お／ご～になってください」が直接恩恵を受ける場合よりも間接的に恩恵を受ける場合のほうが使いやすいことと関係していることが分かった。

(キーワード)

尊敬語、依頼表現、恩恵、「お／ご～になる」、「～てください」

1. はじめに

敬意を払うべき相手に行為を依頼する場合、(1)のように「お／ご～になってください」という言い方と、(2)のように「お／ご～ください」という言い方の2通りの表現が存在する。

- (1) a こちらの新商品をぜひお試しになってください。
- b 館内を自由にご覧になってください。
- (2) a こちらの新商品をぜひお試ください。
- b 館内を自由にご覧ください。

(1)は「試す」「見る」の尊敬語「お試しになる」「ご覧になる」に依頼表現の「てください」をつけた表現であるに対し、(2)は「になって」を省略した表現であるとされている¹。この両者の違いが単に省略の有無であれば、互いに言い換えが可能なはずであるが、言い換えると容認度が下がる場合もある。

本稿では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」から抽出した実例をもとに、両者の違いを検討し、どのような場合にそれぞれの表現が好まれるのかを明らかにする。

2. 先行研究

菊池 (1997) は、「お／ご～になってくださる」と「お／ご～くださる」について、前者の方が敬度

は高いが、簡潔で敬度もさほど変わらない後者のほうがよく使われると述べるとともに、場合によっては後者のほうが自然な場合があることを指摘している。また、直接恩恵を受ける場合は後者のほうが自然であり、前者は、直接恩恵を受ける場合よりも間接的に恩恵を受ける場合のほうが使いやすいとされている。さらに、恩恵の意をすでに失って定型化した命令表現のように使われる場合、後者のほうがなじむようだと述べ、以下のように例を挙げて説明している。

たとえば「本規約に反した場合は反則金をお支払いいただきます／ください」などは、「お支払いになって……」とは言いにくい感がある。(同書: 211-212)

本稿の主張も、基本的には菊池(1997)に従うものであるが、实例を見ると「お／ご～になってください」のように用いられることも多い。また、「お／ご～になってください」の方がより自然に感じられる場合もある。「お／ご～になってください」の实例を中心に検討し、「お／ご～ください」との比較を行いながら、より自然な表現になるのはどのような場合であるかを考察する。

3. WEB 上での記述

野呂(2017)が指摘するように、Web サイト上には敬語の使い方に関する記述が多く見られる。多くの大学生が、就職活動に臨むにあたって、自分が適切に敬語を使えているか不安になり、こうした記述を参考にしていると思われる。「お／ご～になってください」と「お／ご～ください」の違いについても、以下のような記述が見られるが、問題のあるものもある。

A 「ご覧ください」は「ご覧になってください」の「なって」が省略されたものです。他にも「お飲みになってください→お飲みください」や「お触りになってください→お触りください」など「なって」が省略された言葉は多くあります。本来、省略形は敬意が落ちるとされていますが、これらの「なって」を省略した言葉は慣習的に使われており省略されていない形との敬意の違いを意識して使っている人はほとんどいません。

(<https://eigobu.jp/magazine/gorankudasai#heading-146935>)

B 「ご覧になってください」は「見る」の尊敬語である「ご覧になる」＋お願いする「ください」が合わさった言葉です。決して間違いではないので、使用しても問題ありません。

しかし同時に、「ご覧」＋「～になる」＋「ください」が合わさった二重敬語のような印象を与えてしまいがちということもいえます。また少しくどい印象になる言い回しでもあるので、よりスマートに表現するには「ご覧ください」として伝えるとよいでしょう。

(<https://docoic.com/4045#i-2>)

C 「ご覧ください」と同じ意味を持つ「ご覧になってください」という言葉は二重敬語に該当されます。「見る」の尊敬語である「ご覧になる」に、命令や要求の補助動詞(尊敬語)である「ください」が重なっているため二重敬語となります。

二重敬語は基本的に敬語として間違いとされているのですが、「ご覧になってください」は習慣

的に使われる言葉であるため、敬語として使っても良いという意見もあります。使ってもいいの
か不安な場合は「ご覧になってください」ではなく「ご覧ください」を使う方が無難でしょう。

(<https://biz.trans-suite.jp/943>)

Aの前半は、菊池（1997）とほぼ同趣旨の記述であるが、後半では両者の違いはほとんど意識されな
いとされている。BとCでは、「二重敬語」について触れられている。文化審議会（2007）によると、
二重敬語とは、「一つの語について、同じ種類の敬語を二重に使ったもの」のことである。「お／ご～に
なってください」の場合、それぞれ別の語を尊敬語にしたものをつなげた形であり、二重敬語には該当
しない。したがって、Cの記述は明らかに誤りである。このような記述を見て「お／ご～になってくだ
さい」を二重敬語であるから誤りであると認識してしまった場合、「お／ご～になってください」のほ
うが適切な場面でも、この表現を使うことに躊躇してしまう可能性がある。

4. 「お／ご～ください」「お／ご～になってください」の使用数の比較

「お／ご～ください」と「お／ご～になってください」の使用状況について、Google 検索を利用して
調査を行った。国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）」において、「お／ご～に
なってください」の用例が複数検索された10の動詞について、「お／ご～ください」と「お／ご～になっ
てください」の両方の形をGoogleで検索し、検索数及び割合を求めた。

表1 Google 検索による「お／ご～ください」「お／ご～になってください」の検索数

ご覧ください	425,000,000 (91.7%)	ご覧になってください	38,600,000 (8.3%)
お読みください	83,600,000 (96.0%)	お読みになってください	3,520,000 (4.0%)
お考えください	65,400,000 (98.9%)	お考えになってください	746,000 (1.1%)
お待ちください	39,500,000 (94.1%)	お待ちになってください	2,490,000 (5.9%)
お使いください	34,500,000 (89.8%)	お使いになってください	3,920,000 (10.2%)
お持ちください	14,000,000 (83.9%)	お持ちになってください	2,680,000 (16.1%)
お休みください	6,140,000 (74.9%)	お休みになってください	2,060,000 (25.1%)
お上がりください	1,840,000 (99.7%)	お上がりになってください	6,090 (0.3%)
お座りください	163,000 (73.0%)	お座りになってください	60,400 (27.0%)
お忘れください	103,000 (100.0%)	お忘れになってください	6 (0.0%)

表1から分かるように、全体的に見ると圧倒的に「お／ご～ください」の方が多くなり、恩恵の意を
すでに失って定型化した命令表現のように使われる場合、「お／ご～ください」のほうがなじむようだ
という菊池（1997）の主張を裏付ける結果となった。

5. 「お／ご～ください」「お／ご～になってください」の機能

「お／ご～ください」のような表現について、菊池（1997）では、前述したとおり、恩恵の意をす
でに失って定型化した命令表現とされている。一方、日本語記述文法研究会編（2009）では、許可、指示、
懇願、誘いなどに用いられるが、依頼には用いにくいとされている²。

(3) ご自由にお取りください。(許可)

- (4) こちらの欄にお名前をお書きください。(指示)
 (5) どうか今後ともよろしくご指導ください。(懇願)
 (6) お近くにお越しの折りは、是非、お立ち寄りください。(誘い)
 (7) ?空いた時間に京都の町をご案内ください。(依頼)³ (以上5例 同書: 245)

日本語記述文法研究会編(2009)では、許可、指示、懇願、誘い、依頼の区別については述べられていない。本稿では、国語辞典における意味記述を基に、それぞれの違いを検討する⁴。

まずは、国語辞典の意味記述を以下に挙げる。複数の項目がある場合は、該当する項目のみとする。

- 許可 願いを聞き届け、ある行為・行動を許すこと。(『デジタル大辞泉』)
願い出に対して、それを認めること。(『明鏡国語辞典』)
- 指示 さしずすること。命令。(『デジタル大辞泉』)
 人に指図すること。また、その指図されたこと。(『明鏡国語辞典』)
- 懇願 ねんごろに願うこと。ひたすらお願いすること。(『デジタル大辞泉』)
心をこめて丁重にお願いすること。(『明鏡国語辞典』)
- 勧誘 あることをするように勧めて誘うこと。(『デジタル大辞泉』)
 人に働きかけてある行動をするように誘い込むこと。(『明鏡国語辞典』)
- 依頼 人に用件を頼むこと。(『デジタル大辞泉』)
 あることをしてくれるように人に頼むこと。(『明鏡国語辞典』)

こうした記述を参考に許可、指示、懇願、勧誘、依頼の違いについて考える。「動作主の自発的意思」「話者の積極的関与」「事態実現への強制力」「事態実現に対する話者の熱意」という観点を設定すると、それぞれの有無について表2のように考えられる。また、「お／ご～ください」と共起することが多いことが観察された「どうぞ」「どうか」「ぜひ」の3語について、結びつきやすい機能との関係を示している。

表2 許可／指示／懇願／勧誘／依頼の違い

	許可	指示	懇願	誘い	依頼
動作主の自発的意思	○			△	
話者の積極的関与		○	○	○	○
事態実現への強制力		○	△		△
事態実現に対する話者の熱意			○	△	
共起することが多い表現	どうぞ		どうか	ぜひ	

前章では、「お／ご～になってください」の実例が見られること、及び、その中には、「お／ご～ください」に置き換えにくいものがあることを指摘した。次章では、「お／ご～になってください」の実例を、「お／ご～ください」が持つ許可、指示、懇願、誘い(勧誘)という4つの機能の点から考察する。

6. 実例の検討

6. 1 許可の例

動作主の願いを聞き入れて、それを認める許可の例を以下に挙げる。

(8) それからまた病院に戻りましたら、また御飯を食べなくなってしまった。

そこで、家へ帰した方がいいんじゃないかと思って、先生にご相談しましたら、

「じゃ、お帰しになってください。当面こちらの治療も終わりですから」

というわけで、在宅看護になったわけです。(遠藤周作『在宅ケアを考える』1994)

(9) わかりました。もっと聞きたいのですが、時間の関係で御配慮いただきたいということですので、どうぞお帰りになってください。(国会会議録、1984)

(8)の場合、「家へ帰した方がいいんじゃないか」という患者の家族の申し出を聞き入れている。(9)も、「時間の関係で御配慮いただきたい」という証人の願い出を認めている。これらの例で、「お／ご～になってください」を「お／ご～ください」に置き換えると、許可よりも指示として解釈されやすくなる。これは、菊池(1997)が指摘するように、「お／ご～になってください」は、直接恩恵を受ける場合よりも間接的に恩恵を受ける場合のほうが使いやすいことが関係する。(8)や(9)において、話者は動作主の申し出を聞き入れているのだが、直接恩恵を受けてはいない。「お／ご～ください」に置き換えると、動作主の自発的意志を叶えるというよりは、話者の積極的な関与が感じられる。

(10)雪のせいか、一階のダイヤモンドコーナーには、ひとりの客もいなかった。沙霧は店内を見まわしたあと、後ろに控えている白人に向かって目配せをしてみせた。二人の様子を怪訝に思ったのか、店の奥にいたひと目で警備員とわかる男が二人に近づいた。客商売だけにきちんとスーツを着て顔には柔和な笑みを浮かべている。「いらっしゃいませ。七階までございますので、どうぞゆっくりとご覧になってください」

警備員が二人の前に立って言ったとき、白人の男がオーバーコートの前を開き、隠し持っていたショットガンを、警備員の鼻先に近づけた。(門田泰明『黒豹キルガン』1997)

この場合は、「お／ご～になってください」の方がより敬意が高く感じられるが、「お／ご～ください」に置き換えても、意味の違いは感じられない。客が店内をゆっくりと見ることは、店側の恩恵につながるからであろう。

以上のことから、許可を表す場合、話者が直接恩恵を受けない文脈では、「お／ご～になってください」がふさわしく、「お／ご～ください」に置き換えると、許可よりも指示として解釈されやすくなる。一方、話者が直接恩恵を受けるような文脈では、どちらを用いても敬意の差以外には大きな違いはない。

6. 2 指示の例

ここでは、話者がある行為を行うように一方的に伝える指示の例を挙げる。

(11) メール未着という可能性もありますし再送という形で再度同様の文面をお送りになってください。(Yahoo!知恵袋、2005)

(12) 「とすると、具体的な証拠はないわけですか。」

チャールズ卿は残念そうだった。

「いいえ、ありますわ。みなさん、これをごらんになってください。」

ダマーズさんはしずかにいった。

(アントニイ・パークリー麻生九美訳『毒いりチョコレート事件』1986)

いずれにおいても、話者は、動作主がその行為を行うのを拒否することを想定していない。この場合、以下のように、「お／ご～になってください」を「お／ご～ください」に置き換えても違和感はない。むしろ、菊池（1997）が恩恵の意をすでに失って定型化した命令表現のように使われる場合「お／ご～ください」のほうがなじむと指摘するように、動作主の意向を考慮しない文脈であれば、(11)' (12)' のほうがより自然だと感じられる。

(11)' メール未着という可能性もありますし再送という形で再度同様の文面をお送りください。

(12)' 「いいえ、ありますわ。みなさん、これをごらんください。」

指示の場合、話者が動作主の行為から直接恩恵を受けることが多いため、「お／ご～になってください」よりも「お／ご～ください」の方が広く使用されていることから、前者の実例は他の機能の実例に比べ少なかった。

6. 3 懇願の例

話者が一方的に伝える指示に対し、事態実現への強制力が弱い懇願の例を以下に挙げる。

(13) 「お武家様方、長兵衛に免じて、手をおひきになってくださいまし。お武家様方はわっちらが意地づくでやり合っている旗本奴の連中とはかかわりはなさそうだ。こいつらの勘ちがいです。お人ちがいをゆるしてやっておくんなさい」 (南原幹雄『寛永風雲録』1986)

(14) 「もうたくさんですよ、どうか、おやめになってくださいまし。どうか、お願いいたします、お放しくださいまし。さあ、どうか、旦那さま……」などとゲラージュムは言いながら、注意してマカール・バズジェーエフの肘をつかんで戸口へおしもどそうとした。

(トルストイ／北垣信行訳『戦争と平和』2013)

(13)では「長兵衛に免じて」、(14)では「どうか」という共起語句によって、ひたすら相手をお願いしていることが分かる。菊池(1997)が、直接恩恵を受ける場合よりも間接的に恩恵を受ける場合のほうが使いやすいと述べているように、(13)では、後続の文脈から判断すると、お武家様方が手をひくことによって直接恩恵を受けるわけではないことから、「お／ご～になってください」がなじみやすいと言える。それに対して、(14)では、話者が直接恩恵を受けると考えられるため、(14)'のように言い換えても不自然ではない。後続部分では、「お放しく下さいまし」と「になって」が省略された形が用いられている。

(14)' 「もうたくさんですよ、どうか、おやめく下さいまし。どうか、お願いいたします、お放しく下さいまし。さあ、どうか、旦那さま……」

次の例も、話者が直接恩恵を受けていると考えられるため、「お～ください」の方がなじみやすい。

(15) 「大切な跡取りです、命にかえても大事に育てて、二度と危ない目には遭わせません。どうか栄太郎をお助けください」(山本一力『あかね空』2004)

懇願の場合も、話者が直接恩恵を受けない文脈では、「お／ご～になってください」の方が自然に感じられる。話者が直接恩恵を受ける文脈では、「お／ご～ください」に置き換えられるし、そちらの方がより自然に感じられることもある。ただし、他者に懇願する場合は、直接恩恵を受けることが普通であるため、「お／ご～になってください」が懇願を表す実例は比較的少ない。

6. 4 勧誘の例

話者の動作主に対する積極的関与はあるが、事態実現への強制力は感じられない、勧誘の場合について検討する。

(16) 私が今、講演をさせていただくときには、まず泌尿器科の専門の先生方が前立腺がんの詳しいお話をされます。それから私が三波の人生の話や、私どもの三波を支えた経験のお話をし、「PSA検査はとてすぐれた検査なので、ぜひ毎年検査をお受けになってください」ということをお伝えしています。

(八島美夕紀・山中英壽・松本彰子『前立腺がんはPSA検査でわかる』2004)

(17) 本書を読まれたあと、個々のワクチンについて、さらにくわしく知りたいと思われた方は、木村教授の『予防接種の手帖』(近代出版)をぜひお読みになってください。

(堺春美『予防接種、安心して受けるために』1992)

この場合も、話者が間接的に恩恵を受ける場合は、「お／ご～になってください」の方がふさわしい。

(16)で、講演の聴衆がP S A検査を受けることは、話者の恩恵に直接つながるとは考えにくいいため、「お／ご～になってください」が自然であり、むしろ、「お受けください」はなじみにくい。それは、間接的な恩恵が非常に希薄だからである。(17)でも、読者が「木村教授の『予防接種の手帖』」を読むことは、話者の恩恵に直接つながらないため「お／ご～になってください」が用いられているが、この場合は読者が知識を得ることは間接的には話者の恩恵につながるとも言えるため、「お読みください」としても不自然ではないであろう。

7. まとめ

「お／ご～になってください」と「お／ご～ください」という2通りの表現について、菊池（1997）が指摘するように、後者の方が圧倒的に使用されていることがGoogle検索の結果から分かった。その一方で、事例を検討すると、「お／ご～になってください」の方が自然である場合も少なからず見られた。

「お／ご～になってください」の実例を、許可、指示、懇願、勧誘という機能別に見ると、許可、誘いに比べ、指示、懇願は少ないことが分かった。これを、直接恩恵を受ける場合よりも間接的に恩恵を受ける場合のほうが使いやすいという菊池（1997）の指摘に照らし合わせて考えてみる。指示や懇願の場合は、話者が動作主の行為の恩恵を直接受けることが多いため、「お／ご～になってください」よりも「お／ご～ください」がなじみやすいと言える。一方で、表2に示したように、許可と勧誘に共通するのは、動作主の自発的意志である。当該行為を行うかどうかは動作主の意志に委ねられることが、話者が直接恩恵を受けないような事例を生むと言える。

Web上には、「お／ご～になってください」を二重敬語のため誤用であるとする、誤った記述もあるが、本稿が指摘するように「お／ご～になってください」の方が自然な場合もあることは、今後、学生や日本語学習者への指導に活かすことができると考えられる。

【註】

1 菊池（1997: 205）

2 「お／ご～ください」に比べ敬意の度合いが低い「～てください」については、許可、指示、懇願、誘い、依頼のいずれにも用いることができるが、あらたまり度の高い場面や高い敬意を示すべき相手には用いにくいとされている（日本語記述文法研究会編 2009）。また、グループ・ジャマシイ（1998）も「～てください」について、依頼や指示、命令の表現とし、相手がそうするのが当然であるような状況でしか使われず、目下や同等の人に対して使う表現であるとしている。

3 例文の文頭に付記した?は、その表現が容認されにくいことを表す。

4 「誘い」については見出し語にないため、「勧誘」に置き換えて意味記述を検討することとする。以降は、「勧誘」と表記する。

引用

菊池康人（1997）『敬語』講談社学術文庫

グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

日本語記述文法研究会編（2009）『現代日本語文法7 第12部談話 第13部待遇表現』くろしお出版

野呂健一（2017）「敬語に関する規範意識の問題点」『高田短期大学キャリア研究センター紀要・年報』3号, pp. 35-41

文化審議会（2007）「敬語の指針」

http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf

用例出典

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）」オンライン版「中納言」

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>